

科目 「文学国語」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代文 A	単位数	3 単位	学年・学科	3学年全学科
使用教科書	『新編文学国語』 (大修館書店)				
副教材等	『国語必携 ライトパーカクト演習』 (尚文出版)、常用漢字ダブルクリア (尚文出版)				

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	① 近代以降の様々な文章、特に隨筆・小説などを読み、我が国の言語文化に対する理解を深める。 ② 生涯にわたって読書に親しむ態度を育てるここと、多様な文章や考えに触れることで想像力を働かせ、感動したことを共有する力を育む。 ③ 国語の向上を図る態度や、言語文化の継承と創造の担い手となる資質を涵養する。
学習の到達目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、国語の能力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
取得可能な資格	特記なし。但し、日本漢字能力検定2級以上取得をした者には増加単位を与える。
授業を受ける心構え	授業には意欲的に取り組み、始業5分前には教科書やノートの準備をし、授業を「聞く」姿勢を整えておく。また、提出物は必ず期限を守って出す。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	・隨想「そとみなかみ」 (角田光代)	・隨想を読み、筆者の考えに触れることで、発想の面白さに気づく。作品に触れることで、自分自身の生き方を振り返る機会とする。	・一斉授業(座学)	平常考查
5	・小説「ナイン」(井上ひさし)	・友情をテーマにした小説を読み、人の心のありようを味わう。	・言葉でスケッチ ・ライトパーカクト演習	中間考查 学期末考查 提出物
6				
7				
9	・四面楚歌 (史記)	・中国の古典に触れ、人の情感の普遍性を味わう。	・一斉授業(座学)	平常考查
10	・小説「神去なあなあ日常」 (三浦しきん)	・家族をテーマにした小説を読み、愛情の形に触れる。	・エッセイを書こう	中間考查
11		・隨想を読み、筆者の思いを理解し、自らの生活について考える。	・ライトパーカクト演習	学期末考查
12	・隨想「柿」 (畠中 恵) ・小説「山月記」(中島敦)	・山月記を読んで、人間誰もが抱える内面の苦悩に触れ、自身の生き方について考える。		提出物
1	・小説「山月記」(中島敦)	・山月記を読んだ感想をまとめ、人生の在り方について考える。	・一斉授業(座学)	平常考查
2	・「方丈記」(鴨長明)	・鎌倉時代の隨想の冒頭をよみ、日本人の感性を知る。	・クラスの作品集をまとめよう	学年末考查
3	・小説「おぼろ月」(藤沢周平)	・時代小説の世界を味わう。	・ライトパーカクト演習	提出物

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法	
		【 】は評価方法	【 】は評価方法
表現と理解に役立てるための文法・語句 ・語彙・漢字などを理解し、基本的な知識を身につけようとしている。 【定期考查・提出物出席状況】	自分の意見をまとめ、質問に即して文章の要旨のまとめ等を通して、適切に読み取ろうとしている。 【定期考查・授業態度】	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしている。 【提出物・授業態度・発表】	

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
定期考查	40	30	30	100	学習到達度の確認
平常考查	40	30	30	100	予習・復習の確認

シラバス・観点別評価基準

令和7年度

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
地理歴史	歴史総合	全学科	3	2	新選歴史総合(東書)	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、理解するとともに諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題について考察したことを効果的に説明したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
評価の方法・割合等	定期考查 平常考查 課題プリント 等	定期考查 平常考查 課題プリント 等	平常課題 夏課題 授業態度・発表 等
	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1章 1節 2節	歴史の扉 「歴史と私たち」 「歴史の特質と資料」	4	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。	・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現する。
第2章 1節 2節	近代化と私たち 「近代化への問い」 「結びつく世界と日本の開国」	4 5	・18世紀の東アジア諸国の諸相について、資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付ける。 ・工業化と世界市場の形成について、概念的に理解している。	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などについて考察し、結果を表現している。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などについて考察し、結果を表現している。
第2章 3節	国民国家と明治維新	6 7	・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について、概念的に理解している。	・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア諸国に与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などについて考察し、結果を表現している。
第2章 4節	近代化と現代的な諸課題	7	・現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について理解し、説明している。	・近代化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。

第3章 1節 2節 3節 4節	國際秩序の変化や大衆化と私たち 「國際秩序の変化や大衆化への問い合わせ」 第一次世界大戦と大衆社会 経済危機と第二次世界大戦 國際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、諸資料から、情報を適切に読み取ったり、まとめたりしている。 ・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解し、説明している。 ・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解し、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問い合わせを表現している。 ・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 ・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 ・国際秩序の変化や大衆化と私たちにおける自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 ・国際秩序の変化や大衆化と私たちにおける自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
第4章 1節 2節 3節 4節	グローバル化と私たち グローバル化への問い合わせ 冷戦と世界経済 世界秩序の変容と日本 現代的な諸課題の形成と展望	12 1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について、概念的に理解している。 ・冷戦終結後の国際政治の変容と課題について、概念的に理解している。 ・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題について理解し、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などについて考察し、結果を表現している。 ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などについて考察し、結果を表現している。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題を展望するなどして、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 ・「歴史総合」で学んだ全ての内容における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学びに向けての課題を見いだそうとしている。

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学A	全学科選択	3	2	最新 数学A(数研出版)	パラレルノート数学A(数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力
	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。
評価割合等	定期考查 平常考查 課題プリント 等	定期考查 平常考查 課題プリント 等	平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等
	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

第1章 第1節 場合の数	学習内容	月	観点別評価規準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第2節 確率	1. 集合	4	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。 ○共通部分、和集合、補集合を求めることができる。	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。	○日常語の「かつ」「または」「…でない」との関連を認識しようとする。
	2. 集合の要素の個数		○要素を書き並べて表して、集合の要素の個数を求めることができる。 ○和集合や補集合の要素の個数の公式を用いることができる。	○ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。	○集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。
	3. 樹形図、和の法則、積の法則	5	○場合の数を、もれなく重複なく数える手段として、樹形図が有用であることを理解している。 ○樹形図や和の法則、積の法則を用いることができる。	○場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ○自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。	○1つの原則を決めて、樹形図などをを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。 ○正の約数の個数を数えることに興味をもつ。
	4. 順列		○順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方方が適用できるかを見極めることができる。	○積の法則から順列の公式を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて順列の考え方方が適用できるかを見極めることができる。	
	5. 円順列と重複順列	6	○円順列の用語、公式を理解し、利用できる。 ○重複順列の用語、公式を理解し、利用できる。	○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて、円順列、重複順列の考え方方が適用できるかを見極めることができる。	○順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。
	6. 組合せ		○組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○組分けの問題を処理できる。 ○同じものを含む順列の総数を求めることができる。	○順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ○同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。	○組合せの考え方を利用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。
第2節 確率	7. 確率の意味	7	○確率の意味を理解している。		○身近な試行によって起こる事象と関連づけながら、実験などを通じて確率に興味・関心をもつ。
	8. 確率の計算		○事象を集合で表すことができる。 ○試行や事象の定義を理解している。 ○確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。	○試行の結果を事象としてとらえ、事象を既知の集合と結びつけて考えることができる。	
	9. 確率の基本性質		○積事象、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集合で表すことができる。		○和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。
	10. 和事象の確率		○確率の加法定理を用いて、確率を求めることができる。		○一般的な和事象の確率を集合と関連づけて考察しようとする。

1 余事象の確率	9	○余事象の確率の公式を利用して、確率を求めることができる。	○補集合とともに、余事象を考察することができる。	
		○独立な試行の意味を理解している。 ○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○2つの独立な試行を行うとき、その結果として起くる事象の確率について考察することができる。	○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。
		○反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○反復試行の確率を、具体的な例から直感的に考えることができる。	○具体的な事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。
		○条件付き確率の定義、意味を理解している。 ○条件付き確率を、公式を用いて求めることができる。		○くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることに興味をもつ。
		○期待値の定義を理解し、確率の性質などに基づいて期待値を求めることができる。		
三角形の性質	10	○平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ○三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。	○証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。	○線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。
		○外心・内心や重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。	○図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法を適用することができる。	○三角形の3辺の垂直二等分線や3つの角の二等分線及び3本の中線が1点で交わることの証明方法に関心をもつ。
第2節 円の性質	4. 円周角の定理	11	○円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。	
	5. 円に内接する四角形		○円に内接する四角形の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。 ○四角形が円に内接するかどうかを判定できる。	○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。
	6. 円と接線		○円の接線の性質を用いて、辺や線分の長さを求めることができる。	○円と直線の位置関係に3つの場合があることを理解している。
	7. 接線と弦の作る角		○接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。	○接線と弦の作る角についての定理の証明方法を理解する。
	8. 方べきの定理		○方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。	○接線と弦の作る角についての定理を証明する際に、鋭角の場合と鈍角の場合に分けて考察しようとする。 ○方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに関心をもつ。
第3章 1 約数と倍数	1. 約数と倍数	12	○約数・倍数の意味を理解している。	○日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。
	2. 素数と素因数分解		○「エラトステネスのふるい」を利用して、100以下の素数を求めることができる。 ○自然数の素因数分解を求めることができる。	○数学史に興味・関心をもつ。 ○暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることに興味・関心をもつ。
	3. 整数の割り算		○整数aを正の整数bで割る割り算を、aとbの間に成り立つ等式として捉えることができる。 ○カレンダーの曜日の規則と整数の割り算の関係を理解し、問題を処理することができる。	○問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。 ○カレンダーの話題を通じて、日常に関連した法則や規則を数学を用いてとらえることに興味・関心をもつ。
不定方程式	1. 最大公約数		○公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。 ○素因数分解を利用して最大公約数を求める方法を理解している。	
記数法	2. 現代の記数法	1	○記数法、10進法、2進法、n進法について理解している。 ○n進法の整数を10進法で、10進法の整数をn進法で表すことができる。	○現代の記数法を古代の記数法と比較し、特徴を理解している。 ○コンピュータなどの身近な物に、n進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもつ。

令和7年度 化学基礎 シラバス

対象教科・科目	単位数	学年・学級
化学基礎	2 単位	3 年農業科・園芸科・生活文化科
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編化学基礎」（化基 702），ニュースポート新編化学基礎	

1 学習の目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
 - ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法等

学 期	月	学習内容	学習活動	考 查 範 囲	評価の方法		
					知 4 割	思 3 割	主 3 割
1 学 期	4	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か (2h) 化学とは何か	・身のまわりの製品には、その物質の性質がうまく利用されていることに気づく。	1 学 期 中 間	○	○	○
	5	1編 化学と人間生活 2章 物質の成分と構成元素 (8h) 1節 物質の成分 (3h)	・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分を分離する方法があり、物質の性質によるものであることを理解する。		○	○	○
		2節 物質の構成元素 (3h)	・物質を構成する元素は、約 120 種類あることを知る。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、同素体があることを知る。		○	○	○
		3節 物質の三態 (2h)	・物質には三態があり、それぞれ構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化によって体積がどのように変化するか、粒子のふるまいと関係について考察する。		○	○	○
	5	2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表 (5h) 1節 原子の構造 (2h)	・原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。		○	○	○
2 学 期	6	2節 電子配置と周期表 (3h)	・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。	1 学 期 期 末	○	○	○
	7	2編 物質の構成 2章 化学結合 (14h) 1節 イオンとイオン結合 (4h)	・身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づく。		○	○	○
		2節 分子と共有結合 (6h)	・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。		○	○	○
		3節 金属と金属結合 (2h)	・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してきた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。		○	○	○
2 学 期	9	3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 (10h) 1節 原子量・分子量・式量 (2h)	・原子1個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。	2 学 期 中 間	○	○	○
	10	2節 物質量 (2h)	・粒子の数に基づく量の表し方が物質量であることを知る。 ・物質量とその単位の mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・物質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量、空気の平均分子量について理解する。 ・物質量を中心とした量的関係を理解する。		○	○	○
		3節 溶液の濃度 (2h)	・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。		○	○	○
		4節 化学反応の表し方 (2h)	・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。		○		
	11	3編 物質の変化 2章 酸と塩基 (10h) 1節 酸と塩基 (3h)	・酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・アレーニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。		○	○	○
3 学 期		2節 水素イオン濃度と pH (3h)	・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることが知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pH でも表せることが理解する。	2 学 期 期 末	○	○	○
		3節 中和反応と塩の生成 (2h)	・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して、塩の水溶液の pH を測定して考察する。		○	○	○
	12	4節 中和滴定 (2h)	・中和の条件は、酸から生じる H^+ の物質量と塩基から生じる OH^- の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。		○	○	○
	1	3編 物質の変化 3章 酸化還元反応 (14h) 1節 酸化と還元 (3h)	・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。		○	○	○
3 学 期		2節 酸化剤と還元剤 (5h)	・代表的な酸化剤、還元剤は過マンガン酸カリウムや過酸化水素などであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。	学 年 末	○	○	○

科目「体育」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	3単位	学年・学科	全学科 2学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ2023				

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらし、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をすることなく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	体つくり運動	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める。	一斉・グループ	ラジオ体操
5	集団行動、ラジオ体操	○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ。	個別	水泳
6	水泳・球技選択	○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ。		球技
7		○仲間との協力とともに技能を高める。		補習（水泳）
9	球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。	一斉・グループ	球技
10	体育理論	○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。	個別	陸上競技
11	陸上競技（長距離走）	○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。		補習（長距離）
12	球技選択			ロードレース
1	体つくり運動	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。	一斉・グループ	球技
2	球技選択		個別	陸上競技
3	体育理論	○活動計画を立て、実践する。		

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身についている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
授業観察・テスト	40	10	10	60	
提出物等		10		10	
授業態度・発表		10	10	20	
出席状況			10	10	
				100%	

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2単位	学科・学年	全学科 3年
使用教科書	COMET English Communication Ⅱ (数研出版)				
副教材等	COMET基本文法定着ドリル② (数研出版)、チャンクで英単語Basic、ドリルノート② (三省堂)				

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなど総合的な言語活動を通して4技能5領域を育成する。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得できる資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

2. 計画 観点別評価：【主体的に学習に取り組む態度】（=【主】）、【知識・技能】、【思考・判断・表現】

月	学習内容	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・ 考査
4 5	Lesson 4 Digital Detox	・デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・if 節・疑問詞節の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の気持ちや考えを伝えるために、if 節や疑問詞節を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりできる。【思・判・表】	・if 節・疑問詞節 ・デジタルデトックスについて意見を書いたり、発表したりする。	平常考査 中間考査
		・目標設定において重要なことについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・seem + to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の目標について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・seem + to 不定詞 ・自分が立てた目標についてやり取りする。	
6 7	Lesson 6 The High School Hair Salon	・高校生美容室の活動内容や部員の思いについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・助動詞+have+過去分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・就きたい職業について情報や考えを整理して書いている。	・助動詞+have+過去分詞 ・就きたい職業について発表する。	平常考査 期末考査
		・Bye Bye Plastic Bags 計画を理解するために概要や要点を把握しようとする。【主】 ・過去完了形の用法を理解している。【知識・技能】 ・環境のために自分ができることを情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・過去完了形 ・環境のために自分ができることについて英語で書く・発表する。	
9 10	Lesson 8 Nudge パフォーマンステスト Lesson 9 The Father of Braille Blocks	・ナッジについて理解を深めるために、本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・関係代名詞 what の用法を理解している。【知識・技能】 ・身の回りの問題の解決策について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】 ・点字ブロックの開発者について本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・関係副詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・誰もが暮らしやすい社会について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】	・関係代名詞what ・関係副詞 ・誰もが暮らしやすい社会について書いたり、話したりする。	平常考査 中間考査
		・日本のサービスに対する留学生の考えについて概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・使役動詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・必要・不要だと思うサービスについて英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】	・使役動詞 ・サービスについて意見を書いたり、発表したりする。	
11 12	Lesson 10 Do We need That? パフォーマンステスト	・日系が 人の野球チーム バソルバ - 朝日について概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・知覚動詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・人権の問題について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・知覚動詞 +O+動詞の原形 ・人権問題について学ぶ。	平常考査 期末考査
1 2	Lesson 11 The Vancouver Asahi パフォーマンステスト	・日系が 人の野球チーム バソルバ - 朝日について概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・知覚動詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・人権の問題について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・人権問題について学ぶ。	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
・基本的な単語や語句の意味を理解し正しく発音できる。 ・例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できる。 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できる。 【授業中の態度】 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】	・授業中に積極的に質問したり、答えようとしている。 ・提出物を期限を守って提出している。 【授業中の態度】 【出席状況】 【パフォーマンステスト】 【提出物】
4割	3割	3割

科目「課題研究」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	課題研究	単位数	2単位	学年・学科	3学年 農業科
使用教科書					
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。また、農業各分野の将来のスペシャリストに必要な問題解決能力や自己教育力などを育成するとともに、「農業と環境」をはじめとするプロジェクト学習や各分野の専門科目の学習と関連付けて考え、考察する力を養い、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することをねらいとしている。
学習の到達目標	(1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようする。 (2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	特になし。
授業を受ける心構え	実習準備に不備がないこと。主体的な農業学習が行えること

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	班分け、課題の設定	・身についている知識や技術をもとに現状を把握し、問題点や課題点について考える。	・班別実習	
5	課題の設定、計画立案	・必要な情報を収集し、計画を立案する。		
6	計画の実施	・計画書に沿って研究を実施する。		
7	1学期のまとめ、振り返り	・記録したデータを分析し、まとめる。		レポート
9	計画の実施	・計画書に沿って研究を実施する。	・班別実習	
10	計画の実施	・記録を取る際はデータをわかりやすくまとめ、いつでも振り返ることができるようにする。		
11	計画の実施	・記録したデータを分析し、まとめる。		レポート
12	2学期のまとめ、振り返り			
1	年間のまとめ	・年間の研究のまとめを行う。	・班別実習	レポート
2	卒業論文のまとめ	・卒業論文の作成を通して、課題の研究野菜栽培と活用のまとめを行う。		卒業論文
3				

3. 評価の観点と方法

知識・技術 (4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現 (3割) 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 (3割) 【 】は評価方法
農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。 【授業態度、レポート】	農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。 【授業態度、ポートフォリオ、レポート】	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。 【授業態度、ポートフォリオ、レポート、発表】

科目「作物（総合実習）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	総合実習作物	単位数	3単位	学年・学科	3学年 農業科
使用教科書	作物(実教出版)				
副教材等	HP等から自作資料を提示することもある。				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。農業の各分野に関する実践的・体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を体系的・系統的に習得できるようにして、経営や管理、及びその活用について理解を深め、企画力や管理能力、活用技術などを身に付けて、農業の各分野の改善に向けて取り組むことができるようになります。
学習の到達目標	(1) 作物の経営と生産について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	特になし。
授業を受ける心構え	実習服、教科書、ファイルの準備を忘れずに。自主的、意欲的に授業に取り組むこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	イネの一生と成長	・イネやサツマイモの生育的特徴と段階に応じた栽培管理技術について理解させる。	・水稻播種・育苗	
5	サツマイモ栽培	・環境保全型農業の意義や具体的方法について学び、今後の農業の在り方について考えさせる。	・サツマイモ定植	平常考查
6	アイガモ水稻同時作、特別栽培の概要	・作物の栽培実践やまとめを通して、体系的、総合的に理解させる。	・田植え	
7		・イネやサツマイモの生育と収量調査を通して、栽培評価を行うことができるようになる。	・生育調査	学期末考查
9	イネ・栽培の実際	・作物の栽培実践やまとめを通して、体系的、総合的に理解させる。	・稻刈り	
10	サツマイモ栽培	・イネやサツマイモの生育と収量調査を通して、栽培評価を行うことができるようになる。	・作物調整・出荷	平常考查
11	イネ・生育の調査と診断		・収量調査	
12			・土壤改良	学期末考查
1	稲作経営	・作物栽培のまとめを通して、今後の稲作経営の在り方について考えることができる。	・栽培のまとめ	平常考查
2	卒業論文	・卒業論文や3年間の農業学習のまとめを行う。	・卒業論文の完成	学年末考查
3	まとめ			

3. 評価の観点と方法

知識・技術(4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現(3割) 【 】は評価方法	主体的に取り組む態度(3割) 【 】は評価方法
作物の経営と生産について体系的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。 【授業態度、定期考查、平常考查、出席状況】	作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を身に付けています。 【定期考查、レポート、平常考查、授業態度】	作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【授業態度、平常考查、発表】

科目「野菜（総合実習）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	総合実習野菜	単位数	4単位	学年・学科	3学年 農業科
使用教科書	野菜（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。農業の各分野に関する実践的・体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を体系的・系統的に習得できるようにして、経営や管理、及びその活用について理解を深め、企画力や管理能力、活用技術などを身に付けて、農業の各分野の改善に向けて取り組むことができるようになります。
学習の到達目標	(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	実習服を忘れず準備する。5分前行動（実習に意欲を持つこと）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	施設と野菜の種類	・野菜の栽培環境を理解させる。	・一斉授業(座学)	平常考查
5		・実習服の着用と管理 液肥散布の実際		中間考查
6	露地野菜の栽培	・露地野菜の栽培と果菜類の栽培で品質管理ができる		学期末考查
7				
9	半抑制栽培の実際	・メロンの収穫や出荷調整を理解させる。	・実験実習	平常考查
10				中間考查
11				学期末考查
12				
1	播種と管理	・土づくりの実際からは種を理解させる。	・実験実習	平常考查
2	記録簿の整理			学年末考查
3	施設の引き継ぎ			

3. 評価の観点と方法

知識・技術（4割） 【 】は評価方法	思考・判断・表現（3割） 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度（3割） 【 】は評価方法
実習の取り組みのなかで、各作物の基本的な栽培知識や技術の習得が見られ、実習記録簿や調査用紙においても自らの応用工夫が見られる。 【定期考查・平常考查】	作物・野菜ごとの特徴や栽培方法の違いについて理解しようとする姿勢があり、それらを調査し、記録として残すことができる。 【定期考查、平常考查、ポートフォリオ提出物、授業態度、出席状況】	総合実習の心構えについて理解し、それぞれの実習内容について興味・関心を持って、自ら意欲的に取り組もうとしている。 【ポートフォリオ、授業態度、出席状況】

科目「地域資源活用（総合実習）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	総合実習（地域資源活用）	単位数	4 単位	学年・学科	3学年 農業科
使用教科書	地域資源活用（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	草花や野菜の栽培を通して技術の習得や体験的な学習を行い、地域との交流事業の振興や地域貢献につなげる能力と態度を養う。
学習の到達目標	農業の基礎から農業経営の応用までの知識や技術を習得し仕事の進め方やポイントについて理解する。
取得可能な資格	農業技術検定の上位級への受験に活かす。
授業を受ける心構え	① 最高学年としての自覚を持ち、農業に求められる新たな役割を探ろう。 ② チームによる課題解決の中で、科学性・社会性・指導性を伸ばし合おう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	○アスパラガスの栽培	○アスパラガスの特性と栽培方法を理解する。	・一斉授業(座学)	ファイル提出
5	○花苗・野菜苗の栽培	○春の花苗の種類や栽培方法を理解する。	・収穫量調査	中間考查
6	○花壇植栽・露地栽培を通した地域農業の学習	○販売を通して農業経営について知る。 ○地域資源の特性と活用について知る。	・データ処理 ・地域との交流	学期末考查
9	○アスパラガスの栽培	○アスパラガスの特性と栽培方法を習得する。	・一斉授業(座学)	ファイル提出
10	○花苗・野菜苗の栽培	○タマネギ苗の特性と栽培方法を理解する。	・収穫量調査	中間考查
11	○タマネギ苗の栽培	○秋の花苗の種類や栽培方法を習得する。	・データまとめ	
12	○花壇植栽や生産物販売による地域貢献	○販売や交流を通して、農業経営や地域貢献について、身をもって学ぶ。	・地域との交流 ・販売実習	学期末考查
1	○アスパラガスの栽培	○栽培やプロジェクト学習を後輩へ引き継ぐ。	・データまとめ	学年末考查
2	○専攻学習発表会	○プロジェクト学習のまとめと発表を実践する。	・研究発表	まとめ・発表
3	○卒業論文作成	○卒論のまとめを通して、学習成果を整理する。	・卒論作成	卒業論文

3. 評価の観点と方法

知識・技能 (4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現 (3割) 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 (3割) 【 】は評価方法
地域資源活用の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけると共に、新しい時代に求められる農業の役割や可能性について理解している。 【平常考查・通常考查】	基礎的・基本的な知識と技術をもとに栽培上の課題や地域課題を見つけ出し、その解決のために思考を深め、表現する力を身につけている。 【定期考查・通常考查・ポートフォリオ】	身近な野菜や草花の栽培、また地域資源の活用について基礎・基本を身につけ、その内容を地域貢献やプロジェクト学習の場面で実践できる。 【授業態度・実習態度・レポート課題】

科目「作物（専攻）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	専攻（作物）	単位数	4単位	学年・学科	3学年 農業科
使用教科書	作物(実教出版)				
副教材等	HP等から自作資料を提示することもある。				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。農業の各分野に関する実践的・体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を体系的・系統的に習得できるようにして、経営や管理、及びその活用について理解を深め、企画力や管理能力、活用技術などを身に付けて、農業の各分野の改善に向けて取り組むことができるようになります。
学習の到達目標	(1) 作物の経営と生産について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	特になし。
授業を受ける心構え	実習服、教科書、ファイルの準備を忘れずに。自主的、意欲的に授業に取り組むこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	イネの一生と成長	・イネやサツマイモの生育的特徴と段階に応じた栽培管理技術について理解させる。	・水稻播種・育苗	
5	サツマイモ栽培	・環境保全型農業の意義や具体的方法について学び、今後の農業の在り方について考えさせる。	・サツマイモ定植	平常考查
6	アイガモ水稻同時作、特別栽培の概要	・作物の栽培実践やまとめを通して、体系的、総合的に理解させる。	・田植え	
7		・イネやサツマイモの生育と収量調査を通して、栽培評価を行うことができるようになる。	・生育調査	学期末考查
9	イネ・栽培の実際	・作物の栽培実践やまとめを通して、体系的、総合的に理解させる。	・稻刈り	
10	サツマイモ栽培	・イネやサツマイモの生育と収量調査を通して、栽培評価を行うことができるようになる。	・作物調整・出荷	平常考查
11	イネ・生育の調査と診断		・収量調査	
12			・土壤改良	学期末考查
1	稲作経営	・作物栽培のまとめを通して、今後の稲作経営の在り方について考えることができる。	・栽培のまとめ	平常考查
2	卒業論文	・卒業論文や3年間の農業学習のまとめを行う。	・卒業論文の完成	学年末考查
3	まとめ			

3. 評価の観点と方法

知識・技術(4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現(3割) 【 】は評価方法	主体的に取り組む態度(3割) 【 】は評価方法
作物の経営と生産について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。 【授業態度、定期考查、平常考查、出席状況】	作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を身に付けています。 【定期考查、平常考查、レポート、授業態度】	作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【授業態度、平常考查、発表】

科目「野菜（専攻）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	野菜（専攻）	単位数	4 単位	学年・学科	3学年 農業科
使用教科書	野菜（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を育成することを目指す。また、野菜生産を農業経営の視点で捉え、生産性及び品質の向上や経営の発展と関連付けて考察するとともに、野菜生産や経営に関するプロジェクト学習などの実践的・体験的な課題解決学習を通して、野菜生産と経営に必要な資質・能力を育成することをねらいとしている。
学習の到達目標	(1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	特になし
授業を受ける心構え	実習服を忘れずに準備すること。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	野菜の栽培（トマト・メロンの栽培）	農場利用の責任を身につけさせる。野菜の苗について見極める。露地と施設栽培について理解する。	・一斉授業(座学)	中間考查
5				学期末考查
6				
7				
9	半抑制栽培の実際	果菜類の立体栽培について理解する。レポートをまとめることができる。	・一斉授業(座学)	中間考查
10	播種と管理			学期末考查
11				
12				
1	記録簿の整理	データのまとめができるようになる。	・一斉授業(座学)	
2	施設の引き継ぎ	ビニルハウスの作成		学年末考查
3				

3. 評価の観点と方法

知識・技術（4割） 【 】は評価方法	思考・判断・表現（3割） 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度（3割） 【 】は評価方法
実習の取り組みのなかで、各作物の基本的な栽培知識や技術の習得が見られ、実習記録簿や調査用紙においても自らの応用工夫が見られる。 【定期考查・平常考查】	作物・野菜ごとの特徴や栽培方法の違いについて理解しようとする姿勢があり、それらを調査し、記録として残すことができる。 【定期考查、平常考查、ポートフォリオ提出物、授業態度、出席状況】	総合実習の心構えについて理解し、それぞれの実習内容について興味・関心を持って、自ら意欲的に取り組もうとしている。 【ポートフォリオ、授業態度、出席状況】

科目「地域資源活用（専攻）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	地域資源活用(専攻)	単位数	4 単位	学年・学科	3学年 農業科
使用教科書	地域資源活用（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	草花や野菜の栽培を通して技術の習得や体験的な学習を行い、地域との交流事業の振興や地域貢献につなげる能力と態度を養う。
学習の到達目標	農業の基礎から農業経営の応用までの知識や技術を習得し仕事の進め方やポイントについて理解する。
取得可能な資格	農業技術検定の上位級への受験に活かす。
授業を受ける心構え	① 最高学年としての自覚を持ち、農業に求められる新たな役割を探ろう。 ② チームによる課題解決の中で、科学性・社会性・指導性を伸ばし合おう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	○アスパラガスの栽培	○アスパラガスの特性と栽培方法を理解する。	・一斉授業(座学)	ファイル提出
5	○花苗・野菜苗の栽培	○春の花苗の種類や栽培方法を理解する。	・収穫量調査	中間考查
6	○花壇植栽・露地栽培を通した地域農業の学習	○販売を通して農業経営について知る。 ○地域資源の特性と活用について知る。	・データ処理 ・地域との交流	学期末考查
9	○アスパラガスの栽培	○アスパラガスの特性と栽培方法を習得する。	・一斉授業(座学)	ファイル提出
10	○花苗・野菜苗の栽培	○タマネギ苗の特性と栽培方法を理解する。	・収穫量調査	中間考查
11	○タマネギ苗の栽培	○秋の花苗の種類や栽培方法を習得する。	・データまとめ	
12	○花壇植栽や生産物販売による地域貢献	○販売や交流を通して、農業経営や地域貢献について、身をもって学ぶ。	・地域との交流 ・販売実習	学期末考查
1	○アスパラガスの栽培	○栽培やプロジェクト学習を後輩へ引き継ぐ。	・データまとめ	学年末考查
2	○専攻学習発表会	○プロジェクト学習のまとめと発表を実践する。	・研究発表	まとめ・発表
3	○卒業論文作成	○卒論のまとめを通して、学習成果を整理する。	・卒論作成	卒業論文

3. 評価の観点と方法

知識・理解 (4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現 (3割) 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 (3割) 【 】は評価方法
地域資源活用の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけると共に、新しい時代に求められる農業の役割や可能性について理解している。 【定期考查・平常考查・レポート】	基礎的・基本的な知識と技術をもとに栽培上の課題や地域課題を見つけて、その解決のために思考を深め、表現する力を身につけている。 【定期考查・平常考查・ポートフォリオ・技能試験】	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるようみずから学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 【実習態度・出席状況・レポート課題】

科目「農業経営」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校生徒用

教科	農業経営	単位数	2単位	学科・学年	農業科・3学年
使用教科書	農業経営 (実教出版)				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	将来、農業経営者やその他の部門でも経営者になったときにどのようなことが大事で経営者の何が必要かを学ばせる。
学習の到達目標	農業経営の①設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、②コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、③経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。
取得できる資格	特記なし
授業を受ける心構え	今の日本の農業経営と世界情勢、大切な簿記を真剣に考えさせる。

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	・農業の動向と農業経営	・日本と世界の農業	座学	平常考查（4割）
5	・農業のマネジメント	・農業経営の動向	ワークシート	期末考查（6割）
6		・農業マネジメント		
7		・リスクのマネジメント		
9	・農業のマーケティング	・農業マーケティングの概要	座学	平常考查（4割）
10	・農業のマーケティング活動	・農産物のブランド化	ワークシート	期末考查（6割）
11		・市場調査と環境分析		
12		・農業経営の設計と診断		
1	・農業経営、マーケティングの実践	・法人化と6次産業化	座学	平常考查（4割）
2		・自社ブランドによる高級感と差別化の実践	ワークシート	学年末考查（6割）
3				

3. 評価の観点と方法

知識・技術（4割） 【 】は評価方法	思考・判断・表現（3割） 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度（3割） 【 】は評価方法
農業経営の設計と管理に必要な基本的な知識、コスト管理やマーケティングの技術などを身に着け農業経営改善の必要性を理解して学習できているか。 【授業態度・定期考查・平常考查・レポート】	農業管理の改善を目指し自ら思考を深め基本的な知識を活用するなどして課題を適切に判断し、さまざまな視点で表現することができたか。 【授業態度・定期考查・平常考查・レポート】	経営の設計や管理に興味関心を持ち、コスト管理やマーケティングの経営改善の探究に取り組み、課題を解決しようとする主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。 【授業態度・ワークシート・レポート・発表】

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	農業機械	農業科	3	2	農業機械（実教出版）	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、農業機械の取り扱いと維持管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	(1) 農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		
	(2) 農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		
評価の観点	知識・技能（術）		思考力・判断力・表現力
	農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。		農業機械について特性を理解し、効率的な利用へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることができたか。
評価の方法・割合等	定期考查 平常考查（技能試験等）		学習（実習）状況 等
	4割		3割

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1章 農業機械の役割	4	農業機械の基本的・基礎的な構造と機能についての知識を理解することができた。農業経営における機械の役割を理解している。	農作業における農業機械の意義について判断することができた。	農業機械化に必要な情報を集め、まとめ自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができた。
	5			
第2章 原動機	6	各種内燃機関の構造や燃料の違いについて理解している。	内燃機関の構造を理解し、適切な整備を行う技能を習得するために思考を深め、適切に表現している。	イ構造を理解し、適切な整備を行う技能を習得するために興味・関心をもち、体系的な知識と技術について探究しようとしている。
	7			
第3章 トラクタ	9	トラクタの農作業における役割について正しく理解している。	トラクタの構造を理解し、適切な操作や整備を行う技能を習得するために思考を深め、適切に表現している。	トラクタの仕組みについて興味・関心をもち、それらの構造や使用法の違いについて探究しようとしている。
	10			
	11			
	12			
第5章 農業機械の安全	1	安全に関する法規を正しく理解し、農業機械の整備と保守の役割について正しく理解している。	農業機械の整備と保守の方法やそれらに関する法規を理解し、農業機械による事故や健康障害について思考を深め、適切に表現している。	安全に関する法規を正しく理解し、農業機械の整備と保守の役割について正しく理解している。
	2			

科目「食品流通」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	食品流通	単位数	2単位	学年・学科	3学年 農業科(選択)
使用教科書	食品流通(実教出版)				
副教材等	H P掲載内容有り。				

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、食品の流通とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習の到達目標	(1) 食品流通について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようとする。 (2) 食品流通に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 食品流通の合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	特になし
授業を受ける心構え	

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	食品流通を学ぶにあたって 1)食品流通とプロジェクト学習	次のことについて理解する。 ・プロジェクトの進め方を復習する。 ・食品流通の学習の目的を理解する。	一斉授業	
5	現代生活と食品流通について 1)流通の始まりと発展 2)食品流通の働きと役割	次のことについて理解する。 ・生活と流通・自給自足、市・流通の発展 ・生産と消費・物流、商流、情報流 ・流通と費用・食品流通に求められるもの	一斉授業	小テスト 中間考査
6	経済活動と食料 1)経済発展と食料消費、食料事情 2)食生活、食料需給と自給率 3)私たちをとりまく フードシステム	次のことについて理解する。 ・経済システム・食料消費・食料生産 ・グローバル化する食品流通 ・日本の食生活・食料需要と農産品貿易 ・フードシステムのしくみ	一斉授業 クロムブックによる調べ学習	小テスト 学期末考査
7	食品流通のしくみ 1)食品流通の特徴、しくみ 2)価格の形成と流通経費	次のことについて理解する。 ・商品、生産、需要の特徴 ・流通経路、担い手(卸売り、小売り業者) ・価格の決定、販売価格の形成	一斉授業 クロムブックによる調べ学習	
9	おもな食品の流通 1)米、麦の流通	次のことについて理解する。 ・食品、商品としての特性	一斉授業	小テスト
10	2)青果物、畜産物の流通 3)加工食品の流通	・食品の流通と卸売市場 ・流通の新しい流れ		中間考査
11	食品の品質と規格 1)食品の品質と安全性	次のことについて理解する。 ・安全性と信頼性	一斉授業	小テスト
12	2)品質と品質保証 3)規格、表示と検査 4)食品包装、変質と品質保持	・品質保証の必要性、目的と方法、しくみ ・規格、基準、食品添加物の表示 ・包装の意義と目的、包装材、方法、サイクル	クロムブックによる調べ学習	学期末考査
1	食品マーケティング 1)マーケティングとその発展	次のことについて理解する。 ・マーケティングとは何かとその課題	一斉授業	小テスト
2	2)マーケティング戦略と実際 食品流通マーケティングの実践 1)市場調査・環境分析と戦略の策定 2)マーケティングの実践と評価	・戦略の手法を理解し、流通計画を立てる 次のことについて理解する。 ・アイデア整理の方法 ・P D C Aサイクルを実践	クロムブックによる調べ学習 グループ討議 一斉授業 グループ学習	学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技術(4割) 【 】は評価方法	思考・判断・表現(3割) 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度(3割) 【 】は評価方法
食品流通について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。 【定期考査、平常考査】	食品流通に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。 【定期考査、平常考査、ポートフォリオ、提出物、授業態度】	食品流通の合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。 【ポートフォリオ、授業態度、出席状況】

科目「生物活用」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	生物活用	単位数	2 単位	学年・学科	3学年・農業科
使用教科書	生物活用（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	園芸作物の知識と技術を身につけ、園芸セラピーについて学ぶ。
学習の到達目標	生活の質の向上と思いやりを持ち、しなやかに生きる能力と態度を身につける。
取得可能な資格	特になし
授業を受ける心構え	農業の魅力、植物や動物のもつ可能性を、この教科を通して理解して下さい。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	・園芸の効果	園芸の効果を考えさせる。	知識学習	
5	・農業鑑定(園芸の部)	農業鑑定の範囲を総合的に学ぶことによって「園芸」の全体像を復習させる。	ワークシート	中間考查
6	・暮らしの中の園芸 (野菜・草花・野草)	草花が人間生活の中でどのように活かされているかを理解させる。		学期末考查
9	・フラワーデザイン	フラワーアレンジ等の目的と意義について理解させる。	知識学習	
10	・園芸療法	園芸療法の歴史・特性を見ながら、草花園芸がどう活かされるのかを理解させる。	ワークシート	中間考查
11			フラワーアレンジメント	
12				学期末考查
1	・動物介在療法	愛玩動物や伴侶動物の飼育されている目的を学び、動物介在療法について理解させる。	知識学習	
2			ワークシート	
3			レポート	学年末考查

3. 評価の観点と方法

知識・技術（4割） 【 】は評価方法	思考・判断・表現（3割） 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度（3割） 【 】は評価方法
園芸の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、園芸の意義や役割を理解している。 【授業態度、レポート】	園芸に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、園芸に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【授業態度、ポートフォリオ、レポート】	園芸に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、ポートフォリオ、レポート、発表】